

(公財) 国連大学協力会 2019 年度事業報告書
FY2019 Operational Report
The Japan Foundation for the United Nations University

【基本方針】【Basic Guidelines】

国際連合大学（以下「国連大学」又は「UNU」）は、国連総会によって「研究、大学院レベルの研修および知識の普及に携わる、学者・研究者の国際的共同体」として 1975 年に創立された。国連大学憲章では「人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究」をその仕事とされている。それゆえに国連大学は、国連及び関係機関に対し、革新的な政策の選択肢を支える客観的で偏りのないエビデンス（学術的根拠）に基づく「中立的なナレッジ・ブローカー（知識の仲介者）」としての役割を果たしている。

このことから、国連大学は、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」およびその 17 の持続可能な開発目標（SDGs）のすべての範囲に関する研究、政策提言および教育に取り組んでいる。世界 12 ヶ国にまたがる 14 の研究所・プログラムにおいて、600 名以上の研究者とサポートスタッフを擁し、学術的な取り組みに基づく解決策を見出し、国連システムと国連加盟国が SDGs に掲げられているターゲットを実現するための実際的な政策を提言している。

また、国連大学は独自の教育コースやプログラムを幅広く提供している。分野横断的な問題に力を入れ、今後発生する問題や課題に効果的に対処するために必要な知識や技術を未来のリーダーが身に付けるサポートをし、大学院学位（修士および博士）を授与するコース、専門分野における科目等履修プログラムやコース、ワークショップを実施し、さらに若手研究者が国連大学の政策専門家と共に働きながら学べる機会も提供している。

国連大学の大学院学位プログラムは、開発途上国の若手研究者および学者の能力向上、ならびに地域の大学および研究機関とのパートナーシップ強化を目的とし、現在、国連大学物質フラックス・資源統合管理研究所（UNU-FLORES、ドイツ・ドレスデン）、国連大学マーストリヒト技術革新・経済社会研究所（UNU-MERIT、オランダ・マーストリヒト）、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS、日本・東京）、国連大学環境・人間の安全保障研究所（UNU-EHS、ドイツ・ボン）の 4 研究所に設置されている。

UNU-IAS の大学院プログラムは、2019 年 7 月までに、博士号取得者を 10 名、修士号取得者を 72 名輩出した。また 2013 年より開始された東京大学大学院新領域創成科学研究科とのジョイント・ディプロマ・プログラムにおいては、2019 年 7 月までに 30 名の学生にジョイント・ディプロマが授与され、2017 年に開始された上智大学とのジョイント・ディプロマ・プログラムにより、2019 年 7 月までに 5 名の学生にジョイント・ディプロマが授与された。入学応募状況も定着し 2019 年には修士課程に 201 名の応募があり 9 名を入学させ、博士課程には 321 名の応募があり 3 名を入学させた。

本法人は、国連大学憲章の精神を踏まえて国連大学の活動を支援することを目的としており、UNU-IAS が日本・東京にあることから、2019 年度においても UNU-IAS の教育・研究活動を支援してきた。また本法人は、2010 年の同大学院プログラムの創設時より、わが国の経済界及び有志の協力を得て、UNU-IAS 大学院学生を支援するための奨学金をスタートさせ、以来 UNU-IAS 大学院学生の支援を継続してきた。同大学院の卒業生数はまだ少人数ではあるが、彼らの多くは国際機関の研究プロジェクトや開発途上国の政府活動に参画しており、同大学院の人材育成目標にかなった活動を見せ始めている。

本法人は、これらの国連大学の実績に鑑み、国連大学の活動に対する我が国国民の関心を一層高め、東京にある UNU-IAS 大学院学生への奨学金支援を継続するとともに UNU-IAS の研究・研修の諸活動の支援を行った。このことは、本法人の公益事業の活性化を図ることを志向した本法人 2019 年度の基本方針に適うものである。

The United Nations University (UNU) was established in 1975 by the United Nations (UN) General Assembly as “an international community of scholars, engaged in research, postgraduate training and dissemination of knowledge.” The UNU Charter mandates the University to devote its work to “research into the pressing global problems of human survival, development and welfare”. Therefore, UNU fulfil its role as a “neutral knowledge broker” that can provide an objective, impartial evidence base to support innovative policy options for the UN and related organizations.

For this reason, UNU programmes align closely with the 2030 Agenda for Sustainable Development, adopted by the United Nations in 2015, and generally encompass the full range of the 17 Sustainable Development Goals (SDGs). UNU has more than 600 researchers and support personnel, working in more than a dozen institutes and programmes on five continents. They are developing solutions based on academic efforts, and advocating realistic policies that will enable the UN system and UN Member States to reach the targets encapsulated in the SDGs.

UNU also offers a range of unique educational courses and programmes. These focus on cross-cutting issues and help equip the leaders of tomorrow with the knowledge and techniques that they will need to effectively address emerging problems and challenges. UNU awards postgraduate (master’s and doctoral) degrees; organises specialized non-degree programmes, courses, and workshops; and provides opportunities through which young researchers can work alongside, and learn from, policy experts.

UNU’s postgraduate degree programmes aim to enhance the capacity of young researchers and academics from developing countries, as well as strengthen partnerships with local universities and research institutions. Today, the programmes are established at the following four research institutions: UNU Institute for Integrated Management of Material Fluxes and of Resources (UNU-FLORES), Dresden, Germany; UNU Maastricht Economic and Social Research Institute on Innovation and Technology (UNU-MERIT), Maastricht, Netherlands; UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS), Tokyo, Japan; and The UNU Institute for Environment and Human Security (UNU-EHS), Bonn, Germany.

By July 2019, the UNU-IAS postgraduate programmes had awarded doctoral degrees to 10 students and master’s degrees to 72 students. In addition, a joint diploma had been awarded to 30 students by July 2019 in the joint diploma programme with the Graduate School of Frontier Sciences, the University of Tokyo, in launched in 2013. Similarly, a joint diploma had been awarded to 5 students by July 2019 in the joint diploma programme with Sophia University launched in 2017. Also, the University’s flow of applications and admissions is now stable. In 2019, there were 201 applications for the master's programme and 9 students were admitted, and 321 applications for the doctoral programme and 3 students were admitted.

The purpose of the Japan Foundation for the United Nations University (JFUNU) is to support the activities of UNU in light of the spirit of the UNU Charter. Since UNU-IAS is located in Tokyo, Japan, we were supporting its educational and research activities also in FY2019. Since the UNU-IAS postgraduate programmes were established in 2010, we have continuously offered scholarship grants in cooperation with the Japanese business community and volunteers. Although only a small number of students have graduated from the UNU-IAS postgraduate programme so far, many of them are beginning to demonstrate the kinds of activities that meet the programme's human resource development goals, as they are participating in research projects of international organizations and government activities in developing countries.

Considering UNU’s achievement, we further raised Japanese people's interest in UNU’s activities, continued to provide scholarship support to students in the UNU-IAS postgraduate programmes in Tokyo, and supported research and training activities of UNU-IAS. In this circumstance, these activities have accomplished the basic policy of JFUNU which aimed to revitalize its public benefit services.

【事業報告】【Operational Report】

I. 国連大学の活動への理解と支援を高めるための広報・キャンペーン

[Outreach Campaign on UNU's Activities]

広く国民に、国連大学の実施する人類の存続、発展および福祉にかかわる緊急かつ地球規模の問題の研究及びそれにかかわる教育・研修状況について周知させるとともに、それらの活動への理解と支援を高めるために広報・キャンペーンを行った。

特に、国連大学大学院の学生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を展開した。

1. 広報資料の作成 [Promotional Materials]

(1) ニュースレター（継続事業） [Newsletters] (On-going Mission)

国連大学の研究者や短期コース受講生、大学院生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らし、特に大学院についてはカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなども掲載することにより、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えた。

(2) 各種パンフレット（継続事業） [Brochures] (On-going Mission)

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等を製作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めた。

2. インターネットによるキャンペーン [Campaigns through Internet]

(1) ウェブサイトの拡充（継続事業） [Updating of Website] (On-going Mission)

国連大学 IT 担当部署（C3: Campus Computing Center）の協力を得てリニューアルした本法人のウェブサイトを活用し、より充実したわかりやすい情報発信を始めた。ウェブサイトによる広報に注力するとともに、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ユーチューブのさらなる活用を図った。また、国連大学広報部および UNU-IAS と連携を強化し、国連大学の活動内容をより広範に紹介し、イベント情報の告知や記事の紹介を積極的に行い、さらに、本法人独自のコンテンツの充実にも着手した。

(2) メールマガジン（継続事業） [E-mail magazine] (On-going Mission)

賛助会員、国連大学や国連大学協力会の情報を直接的に希望する人々に、国連大学および国連大学協力会の様々なイベント案内を中心とした広報を展開した。

3. レクチャーシリーズの刊行（継続事業）

[Publication of jfUNU Lecture Series] (On-going Mission)

国連大学が取り組む地球規模課題解決の研究について一般国民にわかりやすく紹介するため、国連大学と本法人が共催で実施したシンポジウムやセミナーの結果を「レクチャーシリーズ」として発刊してきた。2018年までに「国際社会における法の支配と市民生活」、「平和と開発のための教育」、「資源としての生物多様性」、「グローバル化した保健と医療」、「サステナビリティと平和」、「持続可能性とリスクマネジメント」「震災復興と生態適応」、「人間の安全保障」「環境と平和」「持続可能な地球社会をめざして：わたしのSDGsへの取り組み」と、10巻を刊行した。2019年度は刊行しなかった。

4. 若年層への広報活動（継続事業） [Outreach to Young People] (On-going Mission)

近年、中学生・高等学校生・大学生の間で地球規模課題への関心が高まってきた機運をとらえ、これらの若年層の人々の国連大学見学会を積極的に支援し、若い人々の国連大学及び国際問題への理解と関心を高めるための広報活動を展開した。2019年度は、東村山市立東村山第四中学校、岡山県立岡山操山高等学校、玉川大学、長野県上田高等学校、山口県立大津緑洋高等学校の受け入れを行った。

5. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

[Outreach to the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)

国連大学の活動を幅広く広報するために、地域の各ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努めた。

II. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等 [Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions for the Global Issues]

本法人では、国連大学の活動について人々の理解と支援を高めるため、国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題の解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを継続的に開催しており、2019年度においては、主として特に若年層の育成に資するためのシンポジウム等を行った。

1. セミナー・シンポジウム(継続事業) [Seminars and Symposium] (On-going Mission)

地球規模課題への取り組みについて、講演者相互の意見交換によるパネルディスカッションや参加者との討議が組み込まれたシンポジウムを継続的に実施してきたが、2019年度は Sustainability Research Symposium 2019 を UNU-IAS と共催にて実施した。このシンポジウムは、UNU-IAS の学生が中心となって企画・運営した。

2. 講演会等 [Lectures, etc.]

説話者のレクチャーを中心とした知識の普及を図るもので、主として、幅広い国民層を対象に、緊急の地球規模課題について国連大学の修了生や大学院生を招き、国連の現場での経験や研究活動に基づく講演会等を実施している。

(1) UNU Alumni Caféの開催（継続事業） [UNU Alumni Café] (On-going Mission)

2017年より UNU の人材育成コースの修了生を招き、今どのような挑戦をしているかをもとに参加者と意見交換をし、国連及び世界が今抱えている地球規模の課題への人々の理解を深める。本法人が修了生たちの同窓会事務運営を引き受けていることもあり、国連大学修了生の活躍を広く知ってもらおうとともに、国連大学への関心を高める機会としているが、2019年度は開催しなかった。

III. 国連大学への助成活動 [Grants for the United Nations University]

本法人の主目的が国連大学が行う諸活動について必要な援助・協力を行うことであることから、国連大学への助成活動は最も基本的な活動であり、2019年度も国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行った。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要とする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行った。（各事業への助成額は P.10 を参照）

1. 教育活動への助成 [Grants for UNU Capacity Development Programmes]

国連大学の教育活動は、地球規模の課題解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的とし、短期研修活動と大学院教育がある。

(1) 国連大学大学院「サステナビリティ学研究所」の学生奨学金助成（継続事業）

[Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

国連大学の実施する大学院プログラムのうち、日本・東京にあるサステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）の実施する大学院プログラム（サステナビリティ学修士課程及びサステナビリティ学博士課程）の学生に対し、日本に滞在しながら学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的として、同大学院プログラム創設時より継続的に助成している。助成の内容は、学生の生活費を中心としたものである。同大学院プログラムの2019-2020年度は

「JfScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく企業等の奨学金寄付のご支援を得て、修士課程の学生4名、博士課程の学生5名の合計9名に奨学助成を行っている。

(2) UNU-IASの実施する短期研修への助成（継続事業）

[Grants for Short-term Seminar by UNU-IAS] (On-going Mission)

UNU-IASが行っている短期研修に助成する。中でも、国連大学グローバル・セミナー[UNU Global Seminar in Japan]については、研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。4日間の宿泊研修であるが、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より継続的に助成してきた。2019年度は「グローバルな行動で国際テロに立ち向かう」というテーマのもと開催され、継続して助成した。

(3) その他の教育事業への助成（継続事業）

[Grants for the Other Capacity Development Programmes] (Ongoing Mission)

その他、国連大学との協議により必要とされる教育事業に助成する。2019年度は、国連大学女性協会（UNUWA）からの指定寄付に基づき、UNU-IASの学生を対象としたフィールドリサーチ等に充てるため助成を行った。

2. 国連大学の教育研究環境整備のための助成

[Grants for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球的な課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

(1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費（継続事業）

[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-Going Mission)

(2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）

[Purchasing Books for UNU Library] (On-Going Mission)

3. 研究活動への助成（継続事業）

[Grants for UNU Research Projects] (On-going Mission)

国連大学の研究成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行うものである。日本国内に設置されている研究所の行う研究活動を重視し、必要な研究活動に対し必要に応じて助成する。2019年度は、UNUWAからの指定寄付に基づき、国連大学のジェンダーバランスへの取組みに対して助成を行った。

IV. 地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]

2019年度は、前年度に引き続き、我が国におけるサステナビリティに関する取り組み及びサステナビリティ・サイエンスに係る取り組み状況について、資料収集を行った。

V. 国際相互理解の促進等に関する事業

[Promotion of International and Mutual Understanding]

地球規模の課題解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠であり、本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本に設置されていることの強みを活かし、諸活動に参加する世界各国の人々に、日本についての理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行った。

1. 国際情報交流事業（継続事業）

[Global Information Exchange] (On-going Mission)

国連大学の研修事業は30有余年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急かつ地球規模の課題解決をする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を希望している。本法人では、1999年度以来、これらの世界各国で活躍する修了生たちと賛助会員、日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供してきたところであり、大学院に在籍中の学生と本法人賛助会員ならびに日本の大学で学ぶ学生や教員との情報交流の機会を提供した。（2019年7月開催）

2. 日本文化体験事業（継続事業）

[Japanese Culture Experience] (On-going Mission)

国連大学本部において開催される各種研修会や大学院には、世界各国から学生が参集する。本事業は、このような学生たちが、研修・教育のための在日期间中に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するためのものである。

- (1) 日本文化に接する機会を提供するプログラムとして、2019年度は、1月に歌舞伎鑑賞会「通し狂言 姫路城音菊礎石（ひめじじょうおとにきくそのいしずえ）」を開催した。
- (2) 日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直接に接する機会として、2019年度は7月にトヨタ自動車株式会社元町工場・トヨタ会館の見学プログラムを企画・実施した。

VI. 寄付金募金活動 [Fundraising Activities]

国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。これらのことに鑑み、本法人は、創設当初より、日本国民の国連大学に対する幅広い支援を得るための寄付金募金活動を実施してきた。（各事業の募金額はP.9を参照）

また、国連大学への支援の継続性を確立するために、現行の募金活動を見直し、新たなファンドレイジングのあり方の検討を開始した。

1. 国連大学大学院「サステナビリティ学研究所」奨学支援募金活動（継続事業）

[Fundraising Activities for the Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes]

(On-going Mission)

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）は 2014 年に従前の国連大学サステナビリティと平和研究所（東京）と高等研究所（横浜）が合併してできた研究所であるが、前者が持っていた 2010 年創設の大学院プログラムが合併後の研究所に引き継がれ、「UNU-IAS 大学院プログラム サステナビリティ学研究所」となった。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、2010 年秋に、「国連大学大学院サステナビリティ学研究所奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員」）」をスタートさせ、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行ってきた。

賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民からも幅広く参加を呼びかけた。

2019 年度において本法人が受入れた当該寄付金の額は 10,891,000 円（法人 12 件、個人 19 件）であった。

2. 一般寄付金（継続事業） [General Donation] (On-going Mission)

国連大学が実施する教育研究プロジェクトへの助成および本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、一般寄付金は、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この募金活動においては、寄付者の意思によって UNU-IAS の特定の事項を指定して寄付することができるものであり、企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかける。2017 年度から開始した古本募金(チャリボン)については、広く一般に寄付を呼びかける仕組みであり、2019 年度においてもこの募金を国連大学本部ビル内に勤務する方々に対しても広報した。

2019 年度において本法人が受入れた当該寄付金額は、2,323,493 円（法人 20 件、個人 30 件）であった。

3. 一般賛助会費（継続事業） [Donation from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募金は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援することを目的にしている。賛助会員の募集にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民からも幅広く参加を呼びかけた。

2019 年度において本法人が受入れた一般賛助会費は総額 495,000 円（法人会員 2 件、個人会員 28 件）であった。

VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

本法人は、公益財団法人への移行後丸 10 年を迎え、この 10 年において本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業に区分した事業展開が徹底し、公益法人活動としては円滑な発展を見ている。

管理運営については、理事会、評議員会、監事会議、助成諮問委員会等を定期的かつ適切に開催し、また、執行理事の権限等の役割分担を明確にし、公益法人としての社会的責任を十分に果たしてきた。財務運営については、2008 年に「資産運用規程」を制定するとともに、同規程に基づき専門家を含む委員による「資産運用委員会」における議論に基づいて運用し、透明で安定的な資産運用を図った。

しかしながら、金融状況の長期的低迷から、財政基盤の確立、寄付金等収入額の増加については、極めて厳しい状況であった。

<公益財団法人国連大学協力会 2019年度事業報告 附属明細書>
2019年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧
 < FY2019 Operational Report Annex >

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)	金 額(¥)	
国連大学大学院「サステイナビリティ学 研究科」支援 募金 (指定寄付)	個人会員 17人 17件 (¥1,690,000) 法人会員 12法人 12件 (五十音順) (¥9,100,000) キッコーマン株式会社 (¥500,000) 株式会社島津製作所 (¥500,000) 住友化学株式会社 (¥2,000,000) 第一生命保険株式会社 (¥1,000,000) トヨタ自動車株式会社 (¥2,000,000) 東レ株式会社 (¥500,000) 日本電子株式会社 (¥500,000) 株式会社三井住友銀行 (¥500,000) 株式会社三菱 UFJ 銀行 (¥500,000) 三菱商事株式会社 (¥500,000) 森本鐵鋼産業株式会社 (¥100,000) YKK 株式会社 (¥500,000) 個人 2人 2件 (¥101,000)	10,891,000 円
一般寄付金 (指定寄付)	(UNU-IAS 大学院生を対象としたフィールドリサーチ 等) 法人 1法人 1件 (¥1,180,000) UNUWA (¥1,180,000) (UNU のジェンダーバランスへの取組み) 法人 1法人 1件 (¥1,000,000) UNUWA (¥1,000,000)	2,180,000 円
一般寄付金	本法人への寄付 (古本募金) 法人 4法人 18件 (¥79,057) 株式会社バリューボックス (¥27,775) 国連開発計画駐日代表事務所 (¥34,752) 国連大学図書館 (¥15,814) 三幸株式会社 (¥716) 個人 17人 26件 (¥50,406) (その他) 個人 4人 4件 (¥14,030)	143,493 円
一般賛助会費	個人会員 25人 28件 (¥295,000) 法人会員 2法人 2件 (五十音順) (¥200,000) 有限会社国大協サービス (¥100,000) 栄通信工業株式会社 (¥100,000)	495,000 円
合計額 :		13,709,493 円

国連大学への助成 (Grants for UNU)	金額 (¥)
・ 大学院「サステナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成 Scholarship Grants for the UNU Graduate Programmes	12,960,000 円
・ 国連大学グローバル・セミナー湘南セッションに対する助成 UNU Global Seminars – Shonan Session	600,000 円
・ UNU-IAS 大学院生を対象としたフィールドリサーチ等への助成 Support of Students' Activities related to the UNU-IAS Postgraduate Programmes	1,180,000 円
・ 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 Maintenance of UNU Centre Facilities	5,000,000 円
・ 国連大学図書館の蔵書購入費 UNU Library Book Procurement Grants	50,000 円
・ 国連大学のジェンダーバランスへの取組み Support of UNU's System-wide Gender Mainstreaming Initiatives	1,000,000 円
合計額:	20,790,000 円